

News Release

2022年11月24日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
N I T E (ナ イ ト)
東 北 支 所

冬の火災は『ゼロ距離』と『ほったらかし』に注意！

～電気暖房器具は使う前に点検も！～
（東北版資料）

1. 事故の発生状況

2017年度から2021年度までの5年間で、NITEに通知があった製品事故の情報^{※1}では、「こたつ」^{※2}と「電気ストーブ」^{※3}の事故は合計347件発生しており、そのうち東北地方6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）では「こたつ」、「電気ストーブ」の事故は20件ありました。

被害状況は死亡2件、軽傷2件、拡大被害10件、製品破損6件となっております。

表1 「こたつ」、「電気ストーブ」による年度別事故発生件数

発生年 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2017年度	1	0	1	0	1	2	5
2018年度	0	1	2	0	0	2	5
2019年度	2	0	2	0	0	0	4
2020年度	0	0	0	1	0	0	1
2021年度	1	1	3	0	0	0	5
合 計	4	2	8	1	1	4	20

表2 「こたつ」、「電気ストーブ」による事故の被害状況別発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	1	0	0	0	0	1	2
重傷	0	0	0	0	0	0	0
軽傷	0	1	1	0	0	0	2
拡大被害	1	0	5	0	1	3	10
製品破損	2	1	2	1	0	0	6
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合 計	4	2	8	1	1	4	20

表3 「こたつ」、「電気ストーブ」による事故の原因区分別発生件数

発生県 原因区分		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	2	0	1	1	1	1	6
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	C: 経年劣化によるもの	0	0	1	0	0	0	1
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	1	0	0	0	0	1
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	0	0	0	0	0	1	1
	F: その他製品に起因しないもの	0	0	1	0	0	0	1
G1、G2: 原因不明のもの		1	0	3	0	0	2	6
H: 調査中のもの		1	1	2	0	0	0	4
合 計		4	2	8	1	1	4	20

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含み、事故発生年月が不明なものを除きます。

(※2) 本資料では、電気こたつを指します。

(※3) 本資料では石英管ヒーター、カーボンヒーター、シーズヒーター、ハロゲンヒーター、パネルヒーター、電気ファンヒーター、オイルヒーターなどをまとめて「電気ストーブ」と記述します。

2. 主な事故事例

○ 2017年4月5日 こたつ（山形県、年齢不明女性）

事故内容： 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因： 当該製品のヒーターユニット取付部品の不具合によるヒーターユニットの落下により、出火に至ったものと考えられる。

○ 2018年2月15日 電気ストーブ（遠赤外線式）（宮城県、年齢性別不明）

事故内容： 使用中の電気ストーブから発煙した。

事故原因： 長期使用（製造後約34年）により、ヒーター制御用のトライアックが故障したため、基板上の電気部品に過電流が流れて異常発熱し、焼損したものと推定される。

○ 2018年11月23日 電気ストーブ（遠赤外線式）（福島県、70歳代男性）

事故内容： 電気ストーブ付近から出火して、周辺を焼損した。

事故原因： 事故品の電気部品に出火の痕跡は認められず、本体上部に繊維が付着していたことから、落下した衣類などの可燃物が事故品に接触したため、焼損したものと推定される。なお、取扱説明書には、「燃えやすい物の近くで使用しない、火災の原因になる。上方から落下物のおそれのないところで使用する。」旨、記載されている。

3. こたつ・電気ストーブの事故を防ぐポイント

- ☑ **可燃物との近接、接触に注意する。**（こたつ布団が押し込まれてヒーターユニットに接触したり電気ストーブの周辺に置かれた衣類などの可燃物が放射熱により加熱して火災が発生する危険があります。）
- ☑ **衣類の乾燥に使用しない。**（上方で乾かしていた衣類が落下して電気ストーブに接触して発火する危険があります。）
- ☑ **就寝前に消す。その場を離れる時や外出時などには消す。**（発火した際に発見が遅れやすく大きな火災につながるおそれがあります。）
- ☑ **電源コードを引っ張らない、折り曲げない、踏まない。**（電源コードが断線し、スパークが発生して火災に至るおそれがあります。）
- ☑ **電源コードの点検を行う。**（使用中に電源コードが触れられないほどに熱くなっていないか点検を行ってください。破損や異常を確認した場合は使用を中止してください。）
- ☑ **定期的に清掃を行う。**（電源プラグ、ストーブの中、吸気部等に堆積したほこりが原因で事故が発生するおそれがあります。定期的に清掃を行ってください。）

4. 製品事故の実験映像につきまして

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構＋NITE のロゴ」としてください。

【編集人のつぶやき】

火を使わない電気暖房器具は、石油暖房器具と比べて換気に気を遣わなくてすむため、狭い空間で長時間使用するなど「ゼロ距離」や「ほったらかし」をしがちですよね。

編集人も冬の期間は風呂の脱衣所を暖めるため電気ストーブの電源を入れたままその場を離れることが日常的となります。ヒートショック対策のため欠かせない暖房の使用ですが、事故を防ぐために、まずは、定期的な清掃や点検を行って安全に使用していきたいです。

（本件に関する問い合わせ先）

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

ナイト

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所（略称:NITE）

責任者（支所長）：高橋 幹男

担当：齋藤（さいとう）、福井（ふくい）、成田（なりた）

電話：022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ

YouTube
公式チャンネル

Twitter
公式アカウント

